

History

There is something that spans the ages.
We must protect it and spread its message.



其の
二

史の章

時代を超えて
守り伝え
受け継がれし
もの



写真

古代からの系譜

Ancient Genealogy

はるかなる昔…
先人たちの暮らし

古代からのメッセージ

都留市内では、先土器時代の遺跡はあまり発見されていませんが、一杯窪遺跡から石器製作跡と思われる遺構が発見されています。

市内には縄文時代早期から晩期までの遺跡があり、尾咲原遺跡からは縄文時代早期の押型文土器が出土しています。縄文時代早期末から前期になると、各地で大規模な集落跡が発見されるようになり、移動生活から拠点的な集落を営むようになったことがうかがえます。山梨県をはじめとした中部山岳地帯の大規模な集落は、縄文時代中期をピークに発達



一杯窪遺跡出土の石器



中溝遺跡出土の土器

(縄文時代中期)



尾咲原遺跡出土の押型文土器

(縄文時代早期)



牛石遺跡出土の弥生土器

東海地方から伝わったものと考えられています。
(弥生時代中期)



三ノ側遺跡出土の和同開珎

奈良時代から平安時代にかけて国内で鋳造された12種の銭貨のうち、最も古い和同開珎が発見されました。(現在は奈良県飛鳥池遺跡で発見された富本銭が最古とされています。)



中谷遺跡出土の耳飾りを付けた土偶

全面に丹が塗られていました。当時の習俗を知る上で貴重なものとして、全国に知られています。
(縄文時代晩期)

しましたが、後期にかけて衰退し、人口が激減したことがわかっていきます。これは、人口増加によって森林の食糧資源が減少し、そこに気候の寒冷化が拍車をかけたためと考えられています。

弥生時代になると、全国的に稲作技術が伝えられ、米などの食糧を自分たちで生産するようになります。市内では弥生時代中期の遺跡がいくつか発見されていますが、いずれも稲作の形跡が認められていません。おそらく当地域内の地形が水田に向いていなかったためだと考えられ、この時代、都留の地で暮らす人々の数は少なかったと推測されています。

大化の改新によって律令体制の基礎が固まると、地方制度などが整備されました。甲斐国には、都留、山梨、八代、巨摩の四郡が設置され、国府が御坂町(現在の笛吹市)に置かれました。

弥生時代、人口が減った当地域の開発が進み、奈良時代から平安時代にかけて遺跡数が増えています。庶民の住居は竪穴式住居でしたが、官舎や倉庫には高床式の建物が造られていました。鷹の巣遺跡からは多数の掘立柱建物跡が発見されており、この周辺が物資の集積地であったことが考えられます。

Message from the Distant Past

Relics were found at the Ippaikubo Ruins in Tsuru City that suggest the production of stoneware. And at the Ozakihara Ruins, earthenware has been uncovered with pressed patterns from the early Jomon Period. A number of ruins have also been discovered from the middle of the Yayoi Period, but there is nothing to suggest that rice was being grown. It is probable that the land was not suited to rice paddies, and it is assumed, therefore, to have been relatively unpopulated.

As the Ritsuryo system of penal and civil codes began to take hold, four townships-Tsuru, Yamanashi, Yatsushiro and Koma-were established in Kainokuni (now Yamanashi Prefecture), and development progressed in the region. Archeological excavations of the Takanosu Ruins suggest that this district served as a staging post for commodities.

城下町文化の醸成

The Creation of a Castle Town Culture

小山田氏以来の 城下町として 積み重ねてきた歴史

城下町として発展

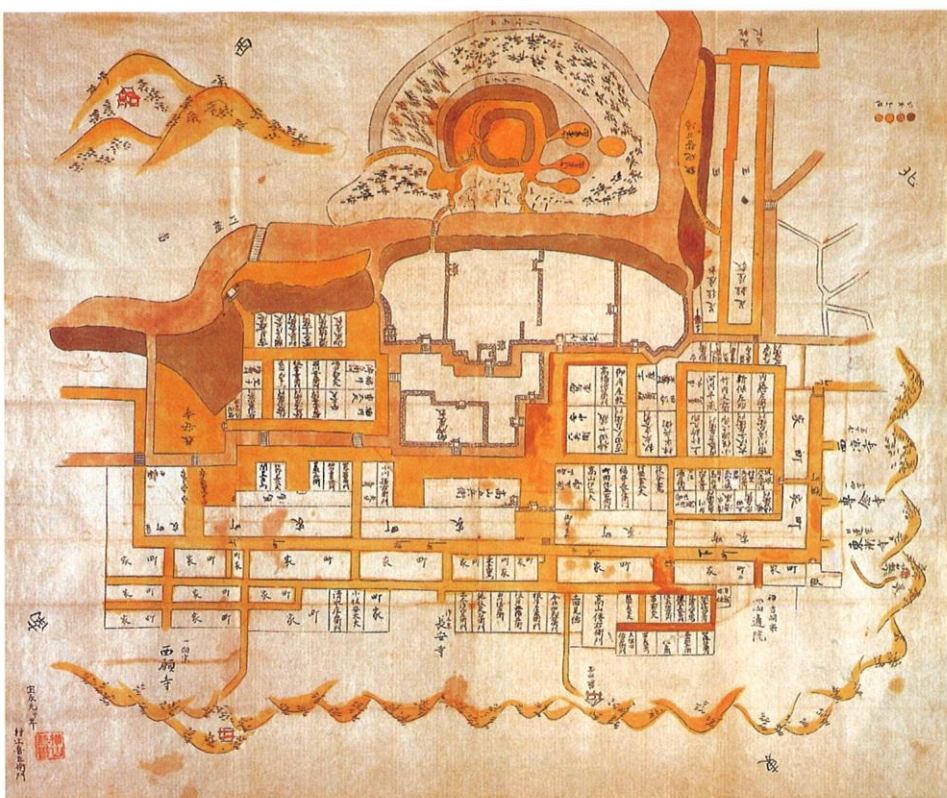
中世、北巨摩地方から甲府盆地一帯にわたっては、清和源氏の源義清、清光父子が勢力を拡大し、やがて甲斐一円を支配する武田氏へと系譜がつながっていきます。都留市内では、秩父氏の流れをくむ小山田氏が中津森に居をかまえ、郡内地方で勢力を伸ばしていきました。天文元年（一五三二）、小山田越中守信有が中津森の館を火災で失ったのを機に、谷村へ居館を移しました。以来、谷村は郡内の政治・経済・文化の中心地としての歩みを開始しました。

その後、北条氏や鳥居氏などによるめまぐるしい城主の交代がありま

したが、寛永十年（一六三三）から秋元泰朝^{あきもと やすとも}、富朝^{とみとも}、喬朝^{たかとも}による、七十一一年にわたる秋元三代の時代を迎え、谷村はさらに城下町としての形を整え、めざましい発展を遂げました。宝永元年（一七〇四）からは、都留郡は江戸幕府直轄の領地（天領）となりました。

名声を博した甲斐絹

江戸時代の中ごろ、江戸の市中で「甲州みやげになにもろた、郡内しま絹ほしどう」という歌が歌われていたそうです。郡内しま絹というのは、文字どおり富士北麓の名産で、現在の都留市を中心に織られていた絹織物のことです。井原西鶴の作品の中にも「郡内絹」が度々登場することから、江戸時代にはすでに有名だったことがうかがえます。当時、オランダからわたってきた織物「カイキ」に似ていたことから、「海気（かいき）」とも呼ばれていました。後世は「甲斐絹」という字があてられました。この織物を当地に繁栄させたのは、江戸時代初期の城主、秋元泰朝でした。郡内地方は消費地である江戸に近かったこともあって、その名声を高めていきました。



甲州谷村城下絵図

秋元喬朝が川越に転封前の元禄時代（1688～1703）ごろの城下町の姿が描かれたものと推測されます。本丸は堀で囲まれ、現在の谷村第一小学校下が二の丸、高尾神社が三の丸です。中央の広小路は追手（大手）で火の見櫓と高札場がありました。大手通りに並行する通りを横町通り、直交する通りを縦町（立町）通りといいました。城郭部分を取り囲むようにして、家老の高山家などの家臣の屋敷が描かれています。（宝永2年（1705）横山美和子家蔵）



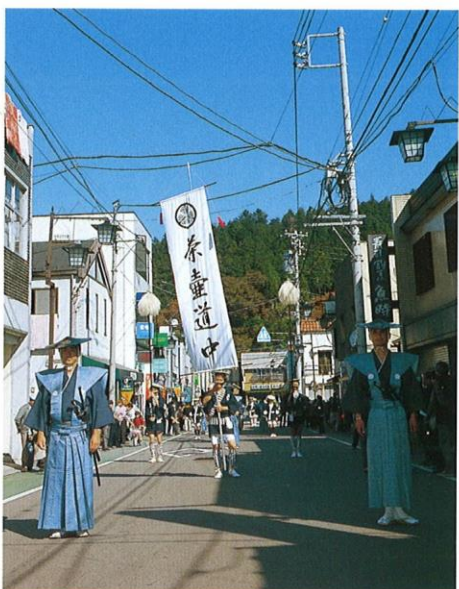
谷村城跡

市役所から高尾公園にかけての範囲が谷村城の城内でした。



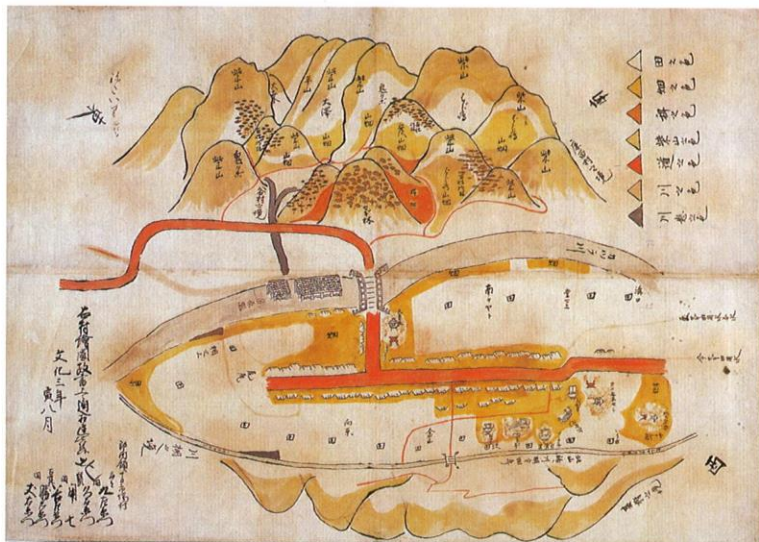
小山田出羽守信有画像

武田氏の重臣として戦国時代に活躍した武将です。（長生寺蔵、県指定有形文化財）



お茶壺道中

江戸時代將軍家御用の宇治茶を江戸に運ぶ「お茶壺道中」の際に、茶壺を夏のあいだ谷村勝山城に格納させ、最高級茶へと熟成したといわれています。秋の産葉まつりではこの「お茶壺道中」を再現しています。



谷村大堰

秋元泰朝は、寛永13年（1636）から約3年を費やし、田原の滝の上流から桂川の水を取り入れて城下町を潤し、下谷村から古川渡方面に至る谷村大堰を開削しました。大堰の完成により郡内における最大の穀倉地帯が生まれました。



Developing as a Castle Town

During the middle ages, Lord OYAMADA extended his influence throughout what is now Tsuru City. In 1532 (first year of the Tenmon Era), OYAMADA Nobuaki shifted his residence to Yamura, thus making Yamura the focal point of the Gunnai region. The age of the three AKIMOTO feudal lords began in 1633 (tenth year of the Kanei Era), and Yamura developed as a castle town. It then became a fief under control of the shogunate in 1704 (first year of the Hoei Era).

Kai Silk Becomes Famous

There is a song that originated in the middle of the Edo Period that makes reference to bringing back Gunnai silk from the Koshu area. The Gunnai region was centered on the district that is now Tsuru City, and the fine silk that was woven there was also referred to as Kai Silk. AKIMOTO Yasutomo, the local feudal lord in the early Edo Period, took advantage of these silk products to make the region prosper. Partly due to the fact that the mass-consuming city of Edo (now Tokyo) was nearby, the name of this silk became very well known.

古の風

Ancient Winds Happiness Fills the Air

あでやかに
町人衆の心意気



八朔祭

Hassaku Festival

「屋台」

Yatai (Festival Floats)

まちにお囃子の音が
響きわたります。

都留市を代表するお祭りといえ、この八朔祭です。郡内三大祭りの一つに数えられ、毎年九月一日に生出神社の例祭として行われてきました。地元では「おはつきさく」などと呼ばれています。豪華絢爛、色とりどりに飾られた屋台にお囃子の競演、江戸の衣装に身を飾った大名行列。この日を楽しみに多くの観光客が都留市を訪れます。

八朔祭は、今から三百年ほど前に始まったとされ、各町が競って豪華な屋台をつくって五穀豊穡を祈ってきました。時代の移り変わりの中で一時は屋台が絶えてしまいました。が、平成二年（一九九〇）に早馬町の屋台が復元され、現在では下町、新町、仲町の屋台が復活し、にぎやかにお囃子を競演しています。

The Hassaku Festival is one of the most famous festivals in Tsuru City. It is counted among the three largest Gunai festivals and is held annually on September 1 at Oide Shrine. Locals familiarly refer to it by such names as O-Hassaku- "Honorable Hassaku."

The Hassaku Festival began approximately three hundred years ago. All of the townships competed in gorgeously decorating their yatai and prayed for a bountiful harvest. Times changed, however, and the yatai temporarily disappeared. The Hayaumamachi float was restored in 1990, however, and eventually so were the Shimomachi, Shinmachi and Nakamachi floats, so that the splendor of the past rings out once again in their competing rounds of festival music. Brilliant colors decorate the yatai ("festival floats") where musicians compete for attention performing festival music, and there is a magnificent procession of residents clothed as feudal lords from the Edo Period. Many visitors look forward to visiting Tsuru City on this day to see the event.



下町の屋台



新町の屋台



仲町の屋台



早馬町の屋台

「飾幕」

Float Tapestries

粋を極めた飾幕は
豪華絢爛です。

八朔祭の見どころの一つは、豪華に飾られた屋台にあります。全体をコの字型に覆っている大きな飾幕は後幕といい、屋台を美しく飾るだけでなく、屋台の囃子方を隠す役目も果たします。あざやかな緋ラシヤ（猩々緋）にビロード、金糸銀糸の刺繍など、趣向の限りをこらした飾幕は、まさに動く芸術作品です。

These large tapestries cover the entire float, serving not only to beautifully decorate the float, but to also hide the interior. Using scarlet cloth, velvet and embroidered patterns of gold and silver thread, a host of ideas go into decorating the floats so that they are indeed moving works of art. Some of the pictures decorating the floats were designed by the famous artist KATSUSHIKA Hokusai.



仲町所有「桜に駒」

歌麿の名声にも負けない人気絵師だった「鳥文斎藤原栄之」の作で、春風に駒がいなき、引き綱に結わえた満開の桜が花吹雪となる…そんな一瞬の美が見事に描かれています。緋ラシヤに舞う600枚以上もの花びらは金糸で縫い取られています。昭和10年9月の崖崩れで土砂に埋まった悲運を乗り越え、見事によみがえりました。

「大名行列」

Daimyogoretsu (Feudal Lord Procession)

市民参加による
総勢百四十人の大名行列。

県下に「都留の八朔祭」の名を知らしめてきたその理由は、この大名行列にあります。神楽や屋台を先導するために行われた行列は、現在はふるさと祭りの一環として受け継がれています。「下に下にく」と勇ましい先陣たちの号令が、時に神妙に時にユーモラスに観客をわかせます。奴姿の赤熊や槍組、鷹匠、馬に乗った殿様や公衆で選ばれた姫様など、その数は約百四十人ほどになり、後ろに続く豪華絢爛な屋台とともに圧巻です。

This procession was held to lead the floats and performers of Shinto music and dance. The audience never loses interest as the procession goes by, sometimes with an air of solemnity and sometimes with gaiety and humor. Approximately one hundred forty people participate in the procession, which includes feudal lords on horseback and a princess selected in an open application process.



下町所有「虎」

ギヤマンの両眼を爛々と光らせ、真鍮（しんちゅう）でメッキされた鋭い牙と爪、四肢をふんばる姿が勇ましい猛虎。屋台が動くとき縫いつけられた竹の葉がゆらめきます。浮世絵師・葛飾北斎が下図を描いたといわれる作品で、「東陽画狂人北斎筆」と落款が縫われています。



早馬町所有「牧童牛の背に笛を吹く」

当時、ビロードとともに珍重されていた緋ラシヤを、赤々と燃える夕映えに見立てた作品で、葛飾北斎が下図を描いたといわれています。幕の上部からは針金に金糸を巻きつけた枝が下り、風にたひびきます。早馬は本物の角、童子の笛は竹製といったこだわりが光ります。



新町所有「鹿島踊」

鹿島明神の御託宣をふれ歩く「事触れ」の古老三人が描かれています。緋ラシヤに金箔の雲、老松と玉垣はビロードに金糸を縫い取ったものです。木綿の真田紐などさまざまな高級染織された「きれ」が使われており、服飾史上でも貴重な作品となっています。葛飾北斎の下図とされています。

大名行列



人から人へ 受け継がれるもの



古来、先人たちは、自然の恵みに感謝し
また自然の驚異をおそれ敬う気持ちの中から
季節の移り変わりの中で行事や祭礼を行ってきました
時代の流れで時代に簡素化されたものもありますが
人から人へと大切に受け継がれてきた行事もあります
近年は、地域や家族のつながりを
より深いものにしてくれるものとして
その価値を見直す動きが高まっています
都留市にはまだまだ、たくさんの伝統行事があります
次の世代へ大切に伝えていきましょう



団子花

伝統行事

— Traditional Events —

小正月

— Koshogetsu (Lunar New Year) —

新年を祝い、
一年の無事を祈る行事です。

毎年一月十四日に行われるもので、
道祖神祭やどんど焼きなども呼
ばれています。市内には六十一基の
道祖神が確認されており、それぞ
れの地区で道祖神祭が行われてきま
した。道祖神をご神体として、縁結び
や子宝、健康、旅の安全を祈る行事
でしたが、最近は道祖神を祀ること
なく、どんど焼きだけを行う地域も
あります。

小正月の行事として、「今年も米が
豊かに稔りますように」「お蚕が成功
して繭がたくさんとれますように」
と祈りをこめて、部屋がいつぱい
なるような大きな木に団子をさして
飾ります。

十四日の朝には道祖神場に、おか
めの面や扇子、大ヌサ、五色の注連
飾り、五色布、ヒイチと呼ばれる魔
除け門守、日用雑貨衣料などさまざ
まな品物を吊した「サイの神」を建
てます。また松や杉などの枝や、各
家庭で飾られた門松、お札、ダルマ

Held every January 14, this event is also known as the Dosojin Festival or the Dondonyaki. Local deities oversee the festival and prayers are made for luck in love, childbearing, health, and safety in travel. To pray for a bountiful harvest, people make dangobana (dumpling cakes skewered on twigs) and erect a decorated pole representing a deity on the morning of the 14th. At night, these are burned together with decorative pine branches and other New Year paraphernalia in prayer for protection from illness and disaster.

どんど焼き



獅子舞

— Shishimai (Lion Dance) —

それぞれの地域に
伝わっています。

市内には数多くの獅子舞が
伝えられています。秋になる
と九月一日から十五日にかけ
て各神社で獅子舞が奉納され
ています。獅子舞のことを神
楽を舞うともいいます。獅子
にはふつう雄獅子と雌獅子が
あるのですが、都留市にはな
ぜか角のない雌獅子のみが伝
わっています。

Many different lion dances have been passed down through the generations in our city. In fall, they are performed at all shrines as dedicatory dances to the gods. The lion dance is also referred to by the expression "kagura o mau," which means to perform ritual Shinto dance and music. For some reason, only the hornless female lioness has been handed down in Tsuru City.

八面(やつおもて)神社(下夏狩)

祭神は建速素戔鳴尊(たけはやすさのおのみこと)で八面は
素戔鳴尊が八岐の大蛇を退治した神徳によるものです。

写真



お天王さん

— Otenoson —

夏の暑さに負けない
珍しい祭りです。

祇園祭のことで、祇園さんなどと
も呼ばれている御嶽神社の祭礼で
す。同神社は須佐之男命も祭神とし
ているため、京都の祇園祭にあわせ
て行われていました。神輿は須佐之
男命のみ魂を入れる荒れ神輿で、威
勢良く町内を練り歩くことで知られ
ています。復活した御嶽囃子の音色
もはなやかに、都留の夏を彩ります。

This festival is held at Mitake Shrine and coincides with the date, July 15, on which the Gion Festival is held in Kyoto. It is well known for the miniature shrines exuberantly paraded through local neighborhood streets. The Mitake Shinto music and dances have also been revived lending magnificent color and excitement to summers in Tsuru.

節分祭

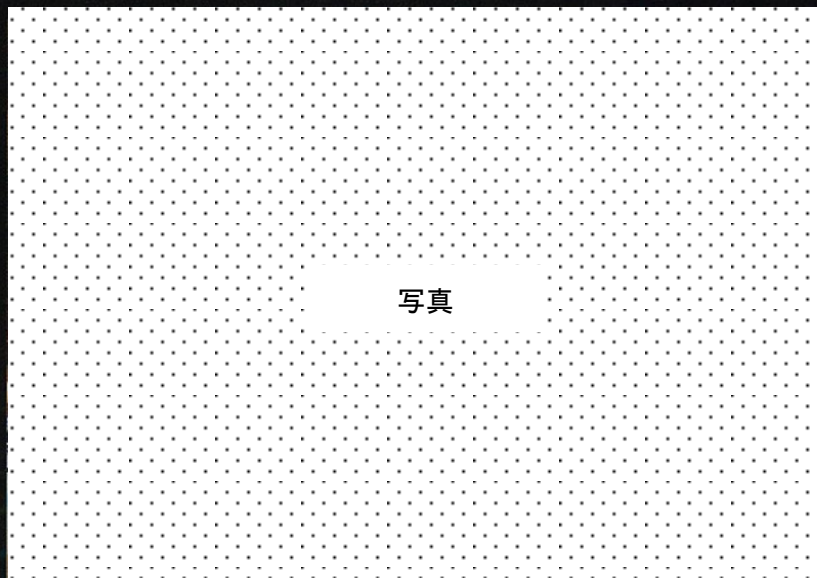
— Setsubun Festival —

新しい年の幸せを祈って
鬼や病を追い払います。

二月三日に行われる鬼を追い払う
儀式です。「鬼は外、福は内」と唱
えながら豆をまくこの祭事、家庭で
も身近な伝統行事の一つです。市内
では、祭事としても行われています。

This rite is held on February 3 to dispel evil demons as people chant, "Out with the demons and in with good fortune!" while scattering beans. It is a common traditional household rite and is also formally conducted at temples and shrines.

写真



子どもたちの元気な声が響く豆まき行事